

2017年12月期 決算説明会 質疑応答概要



2017年12月期 実績について

Q1. 工作機械事業において、3Qのセグメント利益率が2Qよりも増加した要因について教えてください。

A1. 3Qは高精度な機械の販売が多い先進国市場（日本、欧米市場）での販売比率が増加した結果、3Qのセグメント利益率が増加しています。

<参考> 工作機械事業 売上高・利益（四半期ベース）

2Q：売上高 15,653M 利益 2,710M（セグメント利益率：17.3%）

⇒3Q：売上高 16,065M 利益3,258M（セグメント利益率：20.3%）

※セグメント別業績推移（四半期ベース）、地域別放電加工機販売台数推移の詳細につきましては、補足説明資料をご参照下さい。

https://www.sodick.co.jp/ir/pdf/02/180223_meeting_add.pdf

2018年12月期 通期業績予想について

Q2. 2018年12月期の通期予想が増収減益（対2017年1-12月比）となる背景を教えてください。

A2. 2017年1-12月につきましては、大幅な受注増加に伴う量産効果が出た結果、営業利益が大幅に増加しました。

2018年12月期は、受注増加に対応するための設備投資に係る減価償却費の増加及び人員増加、昇給を含めた人件費等の固定費の増加を見込んでおり、営業利益は減少する計画です。

<参考> 2018年12月期通期業績予想につきましては、決算説明資料（P.23）をご参照下さい。

https://www.sodick.co.jp/ir/pdf/02/180223_meeting.pdf

■ 放電加工機の受注状況、生産体制について

Q 3. 17年10-12月の放電加工機受注台数が7-9月よりも増加している背景について教えてください。

A 3. 当社の最大のマーケットである中国において、ものづくりの高度化、人件費高騰に伴う自動化対応、中国政府の補助金の影響もあり、電動化が進む自動車関連、高機能化するスマートフォン関連を中心に設備投資需要が好調に推移しました。また国内でも、EV化、電動化の動きもあり、自動車関連において金型の生産量が増加しており、放電加工機の需要が増加しています。

※放電加工機の四半期ごとの受注台数につきましては、補足説明資料「4.放電加工機受注台数推移」をご参照下さい。

https://www.sodick.co.jp/ir/pdf/02/180223_meeting_add.pdf

Q4. 現在の放電加工機の実産能力について教えてください。

A 4. 足元では主要部品の供給不足の影響等もありますが、1,200台程度（四半期）の実産能力を有しております。現在、受注増加に対応するため、日本、タイ、中国での生産能力拡大を進めております。タイの第2工場に新たな生産ラインを増設するほか、加賀事業所のマルチファクトリーの建設を進める等、生産体制を強化しています。